

# 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	福島区
学 校 名	大阪市立上福島小学校
学校長名	當麻 俊和

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立上福島小学校では、第6学年 28名

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率においては、国語は、全国より2.3%、大阪市より4.0%、算数は4.8%、6.0%上回る結果だった。また、平均無回答率においては、国語は全国より3.8%、大阪市より2.9%、算数は2.1%、1.9%低く、問題に対して積極的に解答したことがわかる結果だった。

また、児童質問紙からは、就寝・起床時間や家族との約束から規則正しい生活を送っていることや、学校後や休日に学習や読書・新聞に向かう時間が比較的多いこと、友達との意見交換や情報収集などでICT機器を学習のために積極的に活用しているなど良かった点があった一方、目標を持ってやり遂げようとすることや、自分の考えを伝えたり、違う意見について考えることには課題が残った。

## 分析から見てきた成果・課題

### 教科に関する調査より

〔国語〕国語においては、言葉に関する事項や書くこと、読むことに関しては全国・大阪市を上回る結果となった。上記の内容については、図書館開放を積極的に活用する児童が多いことや、毎時間の継続した言語指導の取り組みなどが成果として挙げられる。また、学校外・休日等の時間に読書や新聞を読むことなど、進んで文字に関わろうとすることも成果の一つである。しかし、話すこと・聞くことにおいては、全国・大阪市の結果を下回ることとなり、原因としては習熟度別学習や少人数学習を行ってきたが、感染防止対策にも取り組むことで、十分な話し合いや対話的な活動をする時間がとれなかったことが考えられる。

〔算数〕算数においては、測定を除く4つの領域で全国・大阪市を上回る結果となった。特に数と計算・図形・変化と関係の領域では5%～10%近く上回っており、習熟度別学習や少人数学習などの取組で内容の確かな定着があったと考えられる。その一方で、測定の領域は、全国より2%ほど下回る結果となった。単位の関係や大きさを理解することはできるものの、児童質問紙からもわかるように算数に苦手意識を持っている児童も多く、量とその測定の方法を日常生活に生かすことが十分でなかったことが考えられることから今後の課題として取り組む必要がある。

### 質問紙調査より

毎学期初めに行う、「生活ふり返り週間」や毎月の「食育週間」などによって、児童自身が規則正しい生活をし、毎日を有意義に過ごしていることがわかる。また、1人1台用PCの導入により、学習の中でICT機器を進んで活用していることもわかる。また、学校外においても、進んで学習に取り組んだり、読書や新聞など活字に向かう時間も多いたことが国語への関心の高さに繋がっていることからわかる。その一方で、全体を通してグループでの取組や話し合い活動、考え方の共有については不安を感じている児童が多いようである。また、目標に向かって取り組んだり、難しいことへの挑戦などについても低調であり、現在の社会情勢により人との関わりや、コミュニケーション不足、連帯感が感じられないことなどが原因として考えられる。

## 今後の取組(アクションプラン)

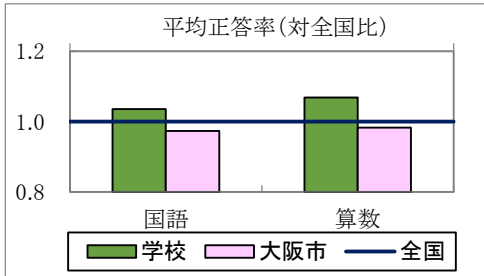
国語では、習熟度別学習や少人数学習など小さなグループから自分と違う意見について深く考えたり、互いに言葉で表現しあったりすること話し合い活動を通して、主体的・対話的で深い学びにつなげていく。算数では、日常生活との関連を深め、生かしたりすることができるように、具体物を用いる活動を取り入れたり、日常生活での活用場面を想定した数学的活動を取り入れたりすることで、関心を高め、主体的に学ぶ態度の育成へとつなげる。

他にも、ICT機器を活用したり、自主学習を引き続き進めていったりする一方で、様々な学習場面で話し合い活動や発表する場面を設けて、コミュニケーション力や連帯感を養っていく。さらに、キャリア教育などを通して、互いの今後や将来の夢について一緒に考えたり、目標を決めたりすることで、挑戦や失敗を恐れない気持ちについても養っていく。

# 【 全体の概要 】

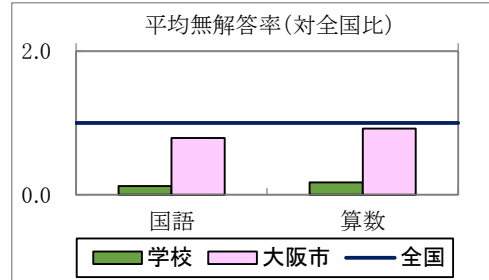
## 平均正答率（％）

	国語	算数
学校	67.0	75.0
大阪市	63.0	69.0
全国	64.7	70.2



## 平均無解答率（％）

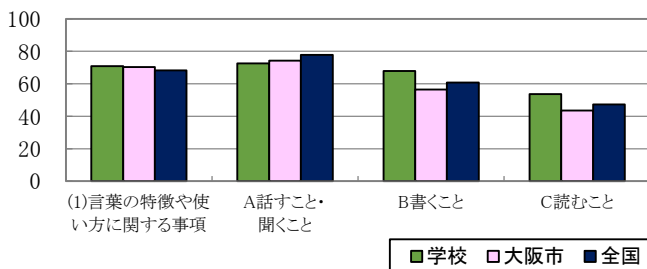
	国語	算数
学校	0.5	0.5
大阪市	3.4	2.4
全国	4.3	2.6



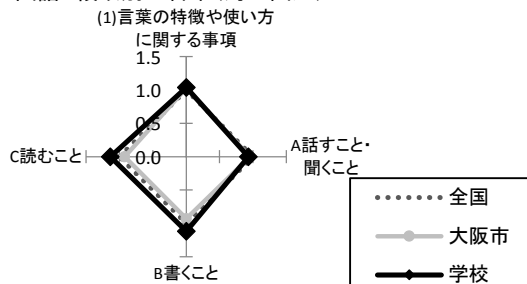
## 【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	6	70.8	70.3	68.3
(2)情報の扱い方 に関する事項	0	0.0	0.0	0.0
(3)我が国の言語文 化に関する事項	0	0.0	0.0	0.0
A 話すこと・聞くこと	3	72.6	74.3	77.8
B 書くこと	2	67.9	56.4	60.7
C 読むこと	3	53.6	43.5	47.2

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



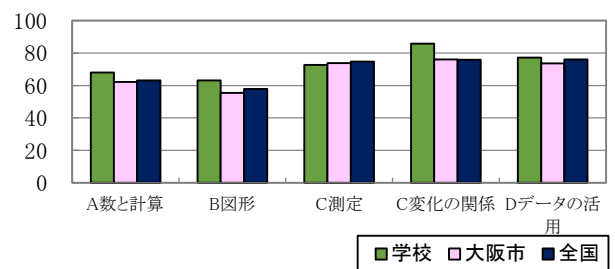
国語 領域別正答率(対全国比)



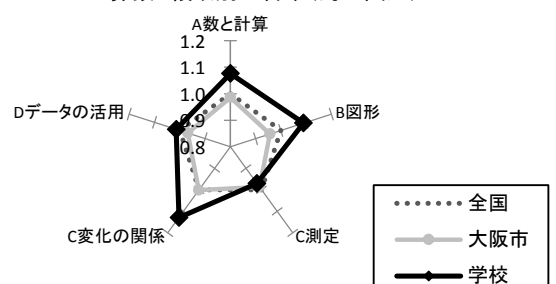
## 【 算 数 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	4	67.9	62.2	63.1
B 図形	3	63.1	55.4	57.9
C 測定	3	72.6	73.8	74.8
C 変化と関係	3	85.7	76.0	75.9
D データの活用	5	77.1	73.6	76.0

算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



算数 領域別正答率(対全国比)



# 児童質問紙より

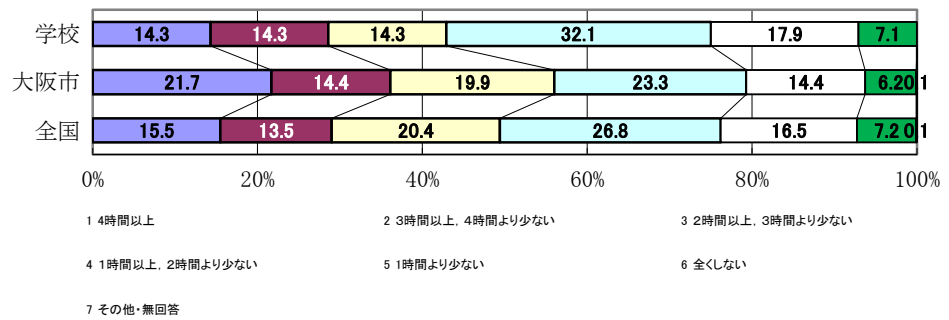
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

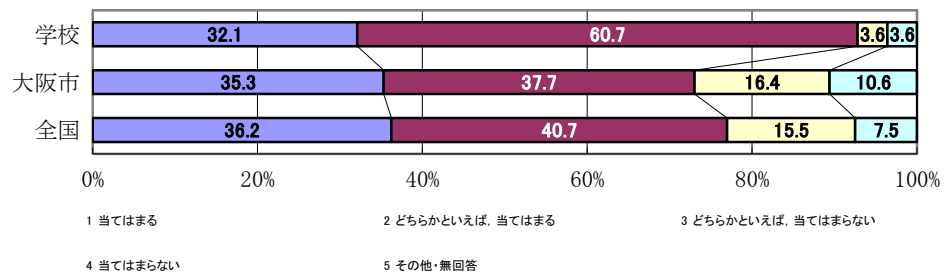
5

普段(月曜日から金曜日),  
1日当たりどれくらいの時  
間, テレビゲーム(コン  
ピュータゲーム, 携帯式  
のゲーム, 携帯電話やスマ  
ートフォンを使ったゲームも含  
みます。)をしますか



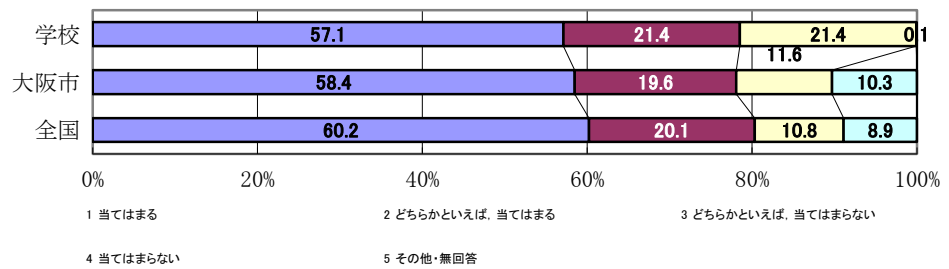
6

自分には, よいところがある  
と思いますか



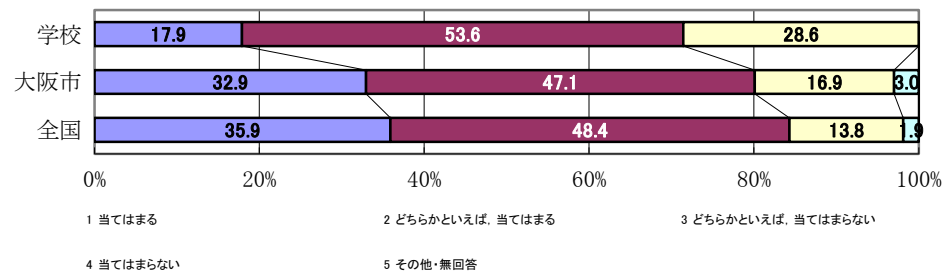
7

将来の夢や目標を持って  
いますか



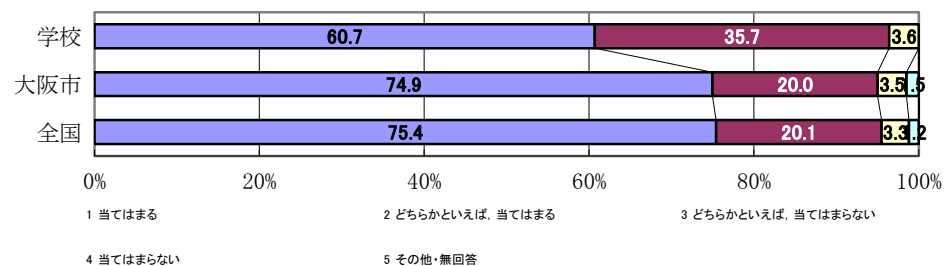
8

自分でやると決めたことは,  
やり遂げるようにしています  
か



12

人の役に立つ人間になりた  
いと思いますか



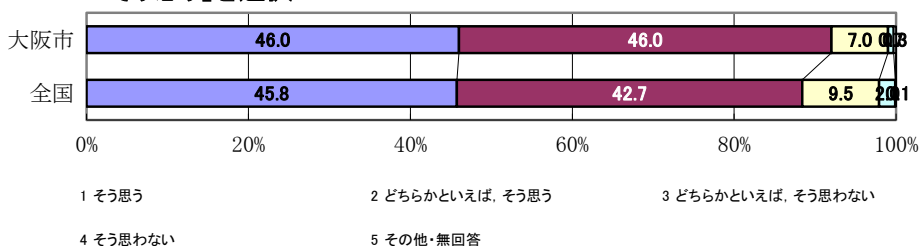
# 学校質問紙より

質問番号  
質問事項

7

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

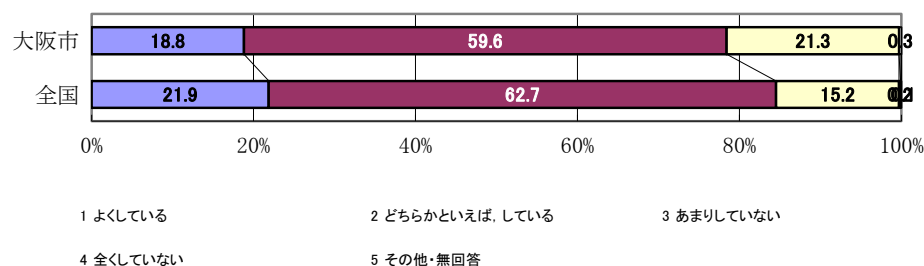
学校 「そう思う」を選択



26

教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか

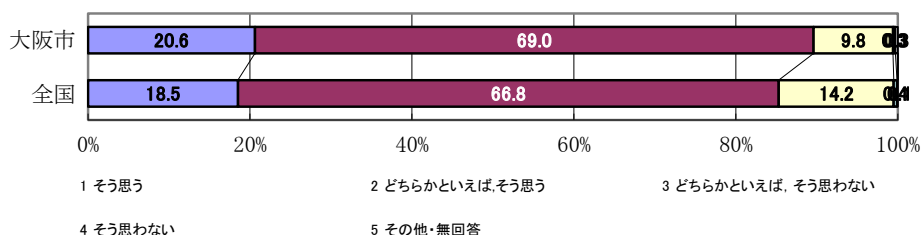
学校 「どちらかといえば、している」を選択



29

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができますか

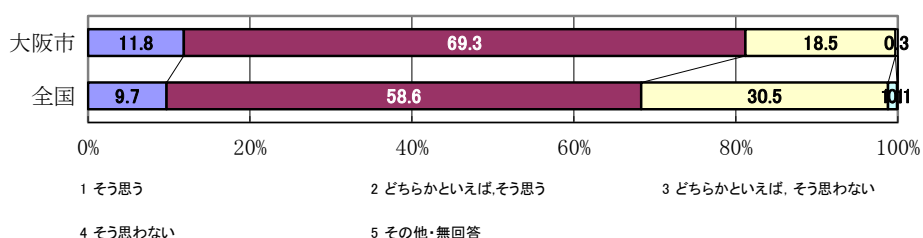
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



30

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができますか

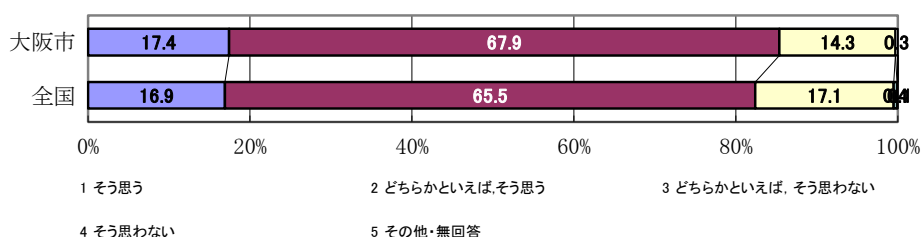
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



31

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



令和3年度「全国学力・学習状況調査」基礎データ(小学校・教科【大阪市・全国】)

				大阪市		全国			
国 語	平均正答率		63	64.7	算 数	平均正答率		69	70.2
	平均無解答率		3.4	4.3		平均無解答率		2.4	2.6
	学習指導要領の領域等	項目数	平均正答率	平均正答率		学習指導要領の領域等	項目数	平均正答率	平均正答率
	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	6	70.3	68.3		A 数と計算	4	62.2	63.1
	(2)情報の扱い方に関する事項	0				B 図形	3	55.4	57.9
	(3)我が国の言語文化に関する事項	0				C 測定	3	73.8	74.8
	A 話すこと・聞くこと	3	74.3	77.8		C 変化と関係	3	76.0	75.9
	B 書くこと	2	56.4	60.7		D データの活用	5	73.6	76.0
	C 読むこと	3	43.5	47.2					